



夏期研修講座ふいかえい

延べ617名の多くの方にご参加をいただき、ありがとうございました。提出いただいた各講座のアンケートを参考にして、今後も皆様のニーズにお応えできる研修講座を計画して参りたいと思います。

講座 1		開催日	7月27日(木)	会場	なごやかセンター集会室	人数	36名
『乳幼児期における 非認知能力の育ち ～就学後を見通して～』		感想	○昔と今でこんなにも時代が変わり、豊かな体験不足がこれからの生き方、考え方に偏りをつくってしまう怖さを、改めて感じました。子どもが夢中になって遊べる場面をたくさんたくさん作って、子ども達の気持ちに共感しながら元気いっぱい楽しんでいきたいと思います。				
講師	大阪総合保育大学 学長 大方 美香 氏		○もっと子どもの気づきを大切にしていかななくてはならないなと思いながら聞かせてもらいました。遊びや学習の中で学力以外のところを育てているということ意識していく必要があると思いました。幼児教育で育ててもらった力を小学校でも上手く繋いでいけるように改善できるところは、変えていきたいです。				
			○非認知能力を身につけていくことの大切さを学び、保育者である自分が子ども達の姿をしっかりみとり、結びつけ、繋げていけるように意識して子ども達と関わっていききたいと思いました。				
講座 2・7		開催日	8月7日(月)	会場	栗東市役所2階 第1会議室	人数	36名
『すべての子どもが輝ける インクルーシブ保育』		感想	○「誰一人取り残さない保育」という観点では、今までの自分の保育が「5歳児だから」とか、「今までこれできたから」という事がなかなか払拭できないでいる自分の振り返りにもなりました。子どもたちどの子どもが「明日も続きをしたい」「もっとしたい」と思えるような保育を考えていきたいです。				
講師	愛知県立大学 教育福祉学部 准教授 三山 岳 氏		○インクルーシブ教育の考え方を再確認できました。日頃から子どもとの対話を通じて環境設定や活動内容など創意工夫し、柔軟な姿勢対応がとても重要になってくると感じました。				
			○対話がインクルーシブ保育で大切だと分かりました。小学校はなかなか対話をする中で進めるのは難しいことが多いですが、このような視点も持ちながら教育活動をしていければと思いました。				

講座 6		開催日	8月4日(金)	会場	歴史民俗博物館 大研修室	人数	52 名
『この子たちの応援団になりたい い ～私たちだからこそできる こと～』		感想	○子ども、保護者への関わり方やアセスメントとその支援方法について、具体的な事例を示しながら教えていただき大変勉強になりました。今、関わっている子どもを思い浮かべながら聞くことができ、9 月から自分ならどうするかを考えていました。教えていただいたことを活かして子どもの将来を見据えながらできることを考えていきたいです。 ○子どもだけでなく保護者もアセスメントしながら支援していくことの大切さを学びました。少し頑張ればできそうな課題をいかにわかりやすく提示していくかを今後も考えていきたいとします。学校だからできることを、学校の色々な立場から考え子どもの学びをサポートしていきたいとします。 ○細谷先生の豊富なご経験からの具体的で心のこもったご講義を受けて、目の前の子どもたちや保護者さんの応援団の一人として、私にできる精一杯のことをしていきたいと改めて強く思いました。 自立と社会参加に必要な 4 つの力と栗東市の我々に贈っていただいた言葉をこれからも大切にしていきます。				
講師	野洲市立野洲小学校 校長 細谷 亜紀子 氏						

◆生徒指導・教育相談講座◆

講座 9		開催日	8月3日(木)	会場	なごやかセンター集会室	人数	35名
『いじめ対応・保護者対応・不登校の防止について』		感想	○一人で抱え込まず、必ずチームで対応すること、過去の事案にまでさかのぼり、問題がなかったか検討することの重要さがわかりました。 ○保護者の不安や課題がそのまま児童に伝わり、原因や新たな児童の課題につながってしまうということを学びました。これから教員として初期対応のスキルを身につけていくだけでなく、学校全体でチームとしてしっかりと継続して対応し続けられるよう、今回学んだことを意識していくことが大切だと思いました。 ○保護者対応が難しいケースが増えましたが、依存関係にならないことや限界設定をすることなど、学校の弱みを客観的立場から見て、的確にアドバイスいただいたことに安心感を覚えました。また、初期対応の大切さを改めて実感しました。				
講師	長野総合法律事務所 弁護士 峯本 耕治 氏						

講座 10		開催日	8月8日(火)	会場	歴史民俗博物館 大研修室	人数	30 名
『不登校の未然防止につながる予防的支援について ～ポジティブ行動支援の 観点から～』		感想	○ 今日の講義は、ポジティブ行動支援の入門ということで、さらに詳しく知りたいと思いました。教師役、子ども役のワークショップは、とてもわかりやすく、ポジティブに声をかけられると、より能動的に試行錯誤し、自ら行動しようとする気持ちが実感できました。視点を変えるだけでこれだけの効果があるのだから、ぜひ学校全体で取り組みたいと思いました。				
講師	大阪教育大学 高度教職開発部門 准教授 庭山 和貴 氏		○ 「困った行動」の理由をきちんとアセスメントし、校内で情報共有をしながら、ポジティブ行動が増えるようにしていきたいです。そのためには、子どもの SOS を細やかにキャッチし、保護者や関係機関と連携して、望ましい行動を増やせるアプローチをしていかなければならないと思いました。 ○ ネガティブ支援になりがちになるが、ポジティブ支援でその生徒の望ましい行動を増やしていけるようにしていきたいと思いました。				

講座Ⅱ		開催日	8月9日(水)	会場	なごやかセンター集会室	人数	31名
講師	『不登校・家庭内暴力・虐待を改善に導いた学校に於けるスクールソーシャルワークの視点とは ～ポイントは子供と保護者の理解・関係機関連携にあり～』	感想	○スクールソーシャルワーク的視点から具体的な事例を交え、分かりやすくお話をしていただき、大変参考になりました。ケース会議を通して、子どもや保護者の課題、子どもを取り巻く環境を把握し、関係機関との連携を図りながら具体的な対応策を検討していきたいと思います。				
	滋賀県 スクールソーシャルワーカー 津村 祥枝 氏		○スクールソーシャル的視点をいろいろ教えていただき、子どもや保護者に関わる中で、どのようなところを見て行くのかということがよくわかり、とても参考になりました。				
			○3つの事例の経緯とどのように対応したかを知ることによって対応方法を改めて確認することができました。学校だけでなく、関係機関と連携していくこと、また保護者にどのような働きかけをしていくかが非常に重要であることを再認識することができました。				

◆保育・教育研修講座◆

講 座 12		開催日	8月3日(木)	会場	なごやかセンター集会室	人数	14 名
『小学校国語科における「確かな学力」の向上を目指す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実』		感想	○じっくりと教材研究ができる時間も、そんなに取れない毎日でしたので、この機にそれができてよかったです。国語科における評価の大切さ、「魅力的な言語活動」、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還の計画など、具体的に学ばせていただきました。				
講師	滋賀県総合教育センター プロジェクト研究 研究員 寺川 絵理 氏 辻 亮 氏		○個別最適な学びと協働的な学びを一体化することで児童の大きな学びにつながると改めて感じました。学びを充実なものにしていくために、授業の中にどのような手立てを盛り込んでいくか、その手立てが継続的なものになるために何を用意すべきか、国語科に限らずすべての教科に通じていると思いました。まずは評価規準を定めて、授業を組み立てていこうと思います。				
		○主体的に取り組む態度のお話から、子どもにとって魅力的な言語活動を設定する大切さということを再認識しました。					
講 座 13		開催日	8月4日(金)	会場	歴史民俗博物館 大研修室	人数	23 名
『思わず考えたくなる・話し合いたくなる国語科学習の「課題」の作り方』		感想	○とても学びの多い研修でした。9月から実際にやってみたいことがたくさん見つけられました。特に、「番える思考」は高学年でかなり使えそうです。物語を「みんなで学んで楽しい」と子どもが思えるように、子どもの読みたい気持ちを引き出せる課題づくりをしていきたいと思いました。				
講師	滋賀大学教育学部 附属小学校 主幹教諭 廣田 卓也 氏		○気持ちを聞いてしまっていた自分の授業を反省しました。魔法の言葉「たぶん」で安心して話せる雰囲気を作り、今日学んだことを9月からの学習で生かして、子どもたちが「思わず考えたくなる、話し合いたくなる」学習を進めていきたいと思いました。				
		○「○○の気持ちは？」を使わない授業実践に初めて出会ったので、大変興味深く聞かせていただきました。セリフ創りはとても盛り上がりそうだなと思い、夏休み明けの授業で試してみたいと思いました。					

講座 14		開催日	8月9日(水)	会場	なごやかセンター集会室	人数	11名
『やってみようの心を育む』		感想	○日頃の園内研のあり方について考えることができとても良かったです。また主体的な保育と非認知能力との相乗効果が現代の子どもの成長に必要なということを改めて感じました。そのために子どもたち一人一人の思いを大切に関わりたと思いました。				
講師	治田東幼稚園 保育士・教諭 坂下 里絵 氏 草間 一花 氏		○他園の取り組みや、主体性についての考え方を話すことができ良かったです。主体性の大切さが分かるがゆえに保育を組み立てる難しさに常に直面しています。たくさん語り合う中で、理想とする保育が見つけられたらいいなと思います。				
講座 15		開催日	8月9日(水)	会場	栗東中学校 メディアルーム	人数	12名
『タブレット活用等の授業実践 に関わる応用編』		感想	【奥田氏】				
講師	葉山中学校 教諭 奥田 耕士 氏 治田西小学校 教諭 大杉 友貴哉 氏		○マイクロビットを使って音を出したり光らせたり、数字を表示させたりするプログラミングの仕方を丁寧にわかりやすく教えていただけて良かったです。				
			○プログラミング的思考について、ゴールから逆算していく考えであるように感じています。目標(ゴール)を達成するためには、様々な手段や道のりがあり、その過程を試行錯誤できる力の基礎を身につけることができるよう、授業改善に努めたいという思いが生まれました。				
			【大杉氏】				
			○ICT教育についていろいろな題材を教えていただき、授業で使いたいと思うものがたくさんありました。また、クラスルームなどの使い方も改めて知ることができ、これからの教育に必要な不可欠な能力の基礎や学んだ気がします。				
			○ICT活用は手段であるという考えを忘れずにいたい。また、使って満足するのではなく、ねらいを明確にして意図的に活用する心を持っておきたいです。アナログとの併用についても、それぞれのメリット、デメリットを吟味して資質能力の育成に最も効果的なやり方を考え、実践していきたいです。				

◆一般教育研修講座◆

『子どもたちの自尊感情を高める ライフスキル教育演習』		○ワークショップで体験できたことで、実感をもって学ぶことができました。スモールステップの自己開示で、少しずつ安心できる環境をつくることの大切さを感じました。今後の社会で、子どもたちが少しでも生きやすくなる力を学校で身につけられるよう、自校に持ち帰って取り組んでみたいと思いました。
講師 ライオンズクエスト 認定講師 寺本 之人 氏	感想	○私は、「聞く」について授業をしました。聞く力は教師が子どもに必ず送るべき贈り物だと実感しました。わたしのクラスには最後まで話を聞かずに途中で話し始めてしまう子どもがたくさんいます。今回学んだ聞き方を授業の中でも何度も伝えて行きたいと思いました。 ○良い集団の根底は安心感であると感じました。安心してからの自己開示ができ、自己開示ができるからつながりが生まれてくるのだと考えます。二学期以降も、自己開示につながる場面を設定し、子ども同士のつながりの向上に努めます。

講座 17		開催日	8月17日(木)	会場	ひだまりの家 コミュニティホール	人数	56名
『性の多様性について』		感想	○LGBT、性の多様性について、実体験を分かりやすく話していただき、心に響く内容で日ごろの自分の言動を振り返るきっかけになりました。相手のことを考え、交流が持てるようにしていきたいと思いました。 ○自分が自分らしく、安心できる社会は必要だと改めて感じました。いろいろな差別をなくしていくためには、周りが変わることに、自分が何をしていけばよいのかを考えることができました。 ○ご自身が言われていたように、終始明るく、笑顔で講話されているのがよかった。人権学習はこうでないといけないと改めて思った。性は死とかかわりが大きい分、生の問題であると思った。みんなが前を向いていけるような発言や行動をとりたい。				
講師	元養護教諭 井上 鈴佳 氏						
講座 18		開催日	8月18日(金)	会場	ひだまりの家 コミュニティホール	人数	47名
『部落差別の解消のために 一人権文化あふれる まちづくり』		感想	○特権の話聞いて、自分を考えると、無自覚な多数派にいる自分がまだまだ多いと感じた。常に意識をし、考え、検証し、行動できる自分であるよう心掛けたいと思った。 ○部落差別問題学習を通して、皆が生きていきやすい世の中を作ることがいかに大切であるか、それは、すべての子どもの教育に必要不可欠だと実感した。まずは、自分の身近にあることから目を向け、鵜呑みにせず、立ち止まって考える、自分事として考えることから始めたい。 ○人権教育の構造を変えていかなければならないことがよく分かった。社会にある当たり前を見直し、マインドセットしていくことが人権を学ぶ本質になってくるように思う。最後の言葉「同和教育をもとに自分の生き方を変えていく」姿を子どもたちに伝えて学習していきたい。				
講師	大阪多様性教育ネットワーク 共同代表 土田 光子 氏						
講座 19		開催日	8月22日(火)	会場	ひだまりの家 コミュニティホール	人数	57名
『無関心でいられても、無関係 ではられない人権問題 ～インターネット上の差別や 人権侵害から考える～』		感想	○差別の実情に対する、自分では気づけなかった見方や捉え方を、講話を通じて学ぶことができました。マイノリティ、マジョリティの目線から物事を変えていくことの大切さを知りました。 ○自分の立場が今有利な立場だから、不利な立場の人の主張に気づくことができないという話が、私の心の中ではっとさせられました。自分が不利になったことばかりを主張していないか、相手の立場を考えるとすることは、自分と相手両方のことを思い、様々な見方で考えることが大切だと思いました。 ○情報化社会の今、やはり様々な情報が拡散されていることを痛感するとともに、新たな問題が起こっていることを知る機会となった。自分で気づいていない偏見や思い込みについて、今一度考えていきたいと思う。				
講師	反差別・人権研究所みえ 常務理事兼事務局長 松村 元樹 氏						

